

IDE大学協会東海支部 令和3年度 IDE大学セミナープログラム

日 時: 令和 3年 8月27日(金) 13:30~16:35

形 式: オンライン形式<Zoom ウェビナー>

テーマ:「ポストコロナの大学教育:あえてコロナ禍下の「成果」を問う」

13:30~13:40 開 会, 支部長あいさつ

IDE大学協会東海支部長・名古屋大学総長 松尾 清一

〔司会:名古屋大学副総長 佐久間 淳一〕

13:40~14:20 基調講演(40分)

「コロナ禍下の成果の検証と発展にいかに取り組むか」

同志社大学 社会学部 教授 山田 礼子

14:20~15:30 話題提供(70分)

〔14:20~14:25 趣旨説明(5分) 名古屋大学 副総長 佐久間 淳一〕

〔14:25~14:40(15分) 〕 名城大学 薬学部 教授 大津 史子

(「大学教育改革フォーラム in 東海」同フォーラム代表)

〔14:40~14:55(15分) 〕 岐阜大学 副学長(総括・国際担当) 杉山 誠

〔14:55~15:10(15分) 〕 愛知大学 副学長(教学担当) 中尾 浩

〔15:10~15:30(20分) 学生 2 名〕 名古屋市立大学 経済学部 3 年 山崎 加奈恵

椋山女学園大学 文化情報学部 4 年 角田 幸穂

15:30~15:40 休憩

15:40~16:30 討論 (パネルディスカッション) (50分)

16:30~16:35 閉 会あいさつ

〔名古屋大学副総長 藤巻 朗〕

IDE 大学協会東海支部 令和3年度 IDE 大学セミナー 趣旨
「ポストコロナの大学教育：あえてコロナ禍下の「成果」を問う」

コロナ禍で大学が受けたダメージは、広がりや深さの点で計り知れない。しかし、必ずしもマイナスの効果だけではなく、プラスの効果も見いだせるのではないか。たとえば、教育や学生支援の面で、これまで見落とされていた課題がコロナ禍で顕在化しており、大学はこれに取り組むことを余儀なくされている。オンライン教育の普及や学生の生活面・経済面での支援などは、その一例に過ぎない。コロナ禍やその影響は、今後もしばらく続くことが予想されるため、この取り組みを継続することが求められる。さらに、取り組みを一時的なものとするのではなく、コロナ禍が落ち着いた状況においても継続・発展させることが必要であろう。

そのことをふまえて、本セミナーでは、コロナ禍で各大学が得た成果をいかに検証するか、その成果を今後の大学教育や学生支援の改善にいかにつなげていくか、その具体的な方法や課題等を考える。とくに、大学経営の観点、教育改善の観点、学生支援の観点、学生自身の取り組みの観点から、話題提供をしていただく。

基調講演 山田礼子「コロナ禍下の成果の検証と発展にいかに取り組むか」

山田氏は同志社大学教授。大学教育学会長として、全国の大学を対象に、コロナ禍での大学教育の現状に関する調査を実施し、その内容をもとにして今後求められる対応について提案をまとめ、文科省に提出した。

話題提供：

国立大学の教育担当副学長：岐阜大学

私立大学の教育担当副学長：愛知大学

教育改善に取り組む団体：「大学教育改革フォーラム in 東海」代表

学生代表：名古屋市立大学、椋山女学園大学

パネルディスカッション：山田氏含め全員

学生代表にお願いした報告の主な内容

- ・ 正課と正課外のそれぞれについて、コロナ禍により「困ったこと」
 - ・ その具体的内容。
 - ・ 困ったことにいかに対処したか。
 - ・ 困った事態解決で学んだこと、今後の勉学・学生生活に活かそうなこと